

もうひとつの働き方を選ぶための情報誌



2021. 6
JUNE
No.84

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合 <http://www.tokyo-workers.jp>

私の仕事術

中小企業診断士という資格に出会う

私のミッションは「事業継続のお手伝い」。問題を解決策するためには、話を聞き、対話を続けるのです。

中小企業診断士という資格を取得し独立、26年が過ぎました。その間、何度かの転換期がありました。研修講師をしていた30代、中堅小売業のコンサルティングに専念した40代、東北と関わり続けた50代前半。その後、現在に至るまで、小さな事業が継続するためのサポートをしています。

大学を卒業した私は大手の小売業に入社。男女雇用機会均等法が施行された頃、入社1年目でバイヤーに抜擢されたのは、女性登用という時代の流れなのか、奇跡のような出来事でした。チャレンジする場所を存分に与えてくれ、女性が働きやすい会社です。今でも私はその会社の大ファンです。

しかし、30歳を前にして感じた居心地の悪さ。それは将来が擦りガラスの向こう側にあるような不思議な感覚。女性は結婚して家庭に入るものという、当時の風潮への不満もあり、自立と自由という生き方に憧れています。

そんな折、中小企業診断士という資格に出会うのです。小学3年生の頃、父が取締役をしていた会社が倒産。私の勉強机まで差し押さえになった経験と、この資格に興味を持ったことは無意識の深い部分で関係しているのだと思います。

東北からもらった宝物

独立して17年目となる2011年。3月11日に東日本は大きく揺れました。その後の余震。電力



● かわぐち さわこ ●

中小企業診断士。(有)ワークショップ 代表取締役。大学卒業後、量販店でベビー用品・子供服のバイヤーに従事。現在は食品スーパー・アパレル・服飾関係の企業を中心に、製造業、卸売業、小売業の経営活性化及び事業再生に努める。



ツアーを組んで、南三陸を訪れました。閑上、石巻、気仙沼など、ツアーは4年間で10回以上になりました

制限下の薄暗い東京。「何かしなくちゃ」。家に籠って考え続ける日々。

その年の5月2日、宮城県閑上（ゆりあげ）の現場を目焼き付けました。大したことはできない、でもやらないよりはいい。

混乱の中で再スタートをする事業者様に、掃除機などを東京から送りつつ、時々は石巻や南三陸の避難所で事業に関する相談を受けました。けれども、何の解決策も提示できないのです。そんな私に向かって、「聞いてくれてありがとう」と言いながら、仮設住宅から持参した缶コーヒーなどを手渡してくださる方たち。

東北バスツアーの企画、募金活動、仮設商店街への物資調達。思いつくままに中小企業診断士の仲間たちと無我夢中で動きながら、あっという間に過ぎた4年間。

ふと立ち止まると、私の考え方方が変わっていたのです。コンサルティングとは押し付けることではない。何もできなくても、とにかく話を聞こう。聞くことで解決策が生まれることがある。一人では解決できない時は、仲間と取り組もう。

それが私の仕事術。それは、東北からもらった宝物です。



社会をつくり直す!

『ソーネOZONE(おおぞね)』 愛知県名古屋市

地域のあつたらいなを形に

~少子高齢化の進む街に新しい息を吹き込み、地域再生と社会的包摶を実現~

『ソーネOZONE』に入る大曾根住宅は、名古屋市北区にある築45年を超す集合住宅。年々増える空き室が問題となっていました。空き室を活用した分散型のサービス付き高齢者住宅をつくる計画の中で、1階の300坪程の空きスペースも活用できないかと、『わっぱの会』*にお声がかかりました。障害者や高齢者がいきいきと働きながら地域の人と交流できる場所として運営できればと、地元住民と定期的に会議を開き、地域のあつたらいなを形にした『ソーネOZONE』が2018年3月に誕生しました。

施設内は、主に5つの事業(右図参照)で成り立っており、それらは、わっぱの会がこれまで培ってきた各事業(製パン製菓、農業、配食業、製麺業、リサイクル業、相談事業など)が総合的に結びつき関連しあったものとなっています。

*1971年の設立当初から、社会的に不利を抱える人達と共に働き共に暮らす、みんなの共生共働を実践しています。

その他、地域ボランティアが主体で行う毎月最終火曜日の子ども食堂では、現在、500食を超えるお弁当の配布を行っています。また、コロナ禍で勉強についていけなくなった子ども達の学習支援も今年の4月より始めました。

『ソーネOZONE』の『ソーネ』は、人と人が顔を見合せ、「そうね、そうね」と頷きあうところから来ています。地域に開かれ、地域に根付いた、地域のための交流拠点。コロナ禍で人と出会うこと自体が厳しくなっている昨今ですが、このような時期だからこそ、人のぬくもりを感じられる市民の憩いの場として、これからも、みんなのあつたらいなを形づくっていけたらと思います。

わっぱの会 清川千春

ソーネ OZONE

愛知県名古屋市北区山田2丁目11-62

大曾根住宅1棟1F

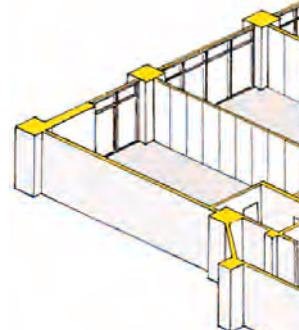
TEL.052-910-1001(代表) FAX.052-910-0018

URL <https://sone-ozone.com/>



ソーネホール

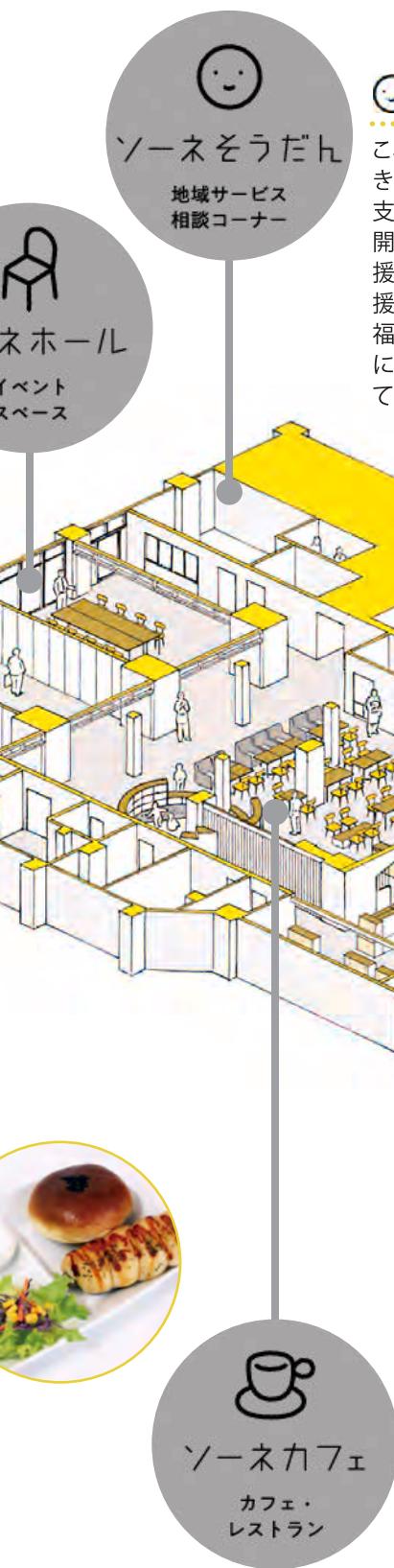
地域住民の自主的な企画へ場所を提供する、会員制のレンタルスペースです。コンサートやセミナー、ダンス教室、ヨガ、出張講座、映画の自主上映など、使用する人のアイデアでいかにも利用が可能です。会費と使用料も、誰もが利用しやすいお手軽価格となっています。定例開催のリサイクル市や大衆演劇は、ホールの人気イベントとして定着しています。



ソーネカフェ

自社のパンとうどん、無農薬野菜を使用した、安全なメニューを出来るだけ取り揃えています。朝昼晩と、一人暮らしのお年寄りの1日3食を貰えるよう、価格もリーズナブルです。内装は、愛知県豊根村の木材を基調とし、テーブルは名古屋市の街路樹を使用。子どもたちが寝転んだり絵本を広げて読んだり出来るキッズスペースや、じかに座ってゆったりとくつろげる小上がりスペースもあり、子育てママやお年寄り、障害ある方など、幅広い層のお客様にご利用頂いています。





ソーネそうだん

これまでわっぽの会で行ってきた障害者の就労斡旋と相談支援、困窮者支援に、新たに開設した要配慮者向け居住支援を柱として、他の高齢者の支援団体などとも協力しながら、福祉・仕事・住居・生活などに関わる総合相談窓口を行っています。

ソーネしげん

愛知県津島市のしげんカフェをお手本に、税金を使わず市民主体の事業としてリサイクルを進めようと開設した、資源買取りセンターです。紙や缶・ペットボトル以外にも自転車や陶器・古着など家庭に眠る様々な資源を、現金に交換したり、ポイントを貯めてソーネカフェのドリンクやお食事券として活用出来ます。地域住民が、自ら分別をして資源を持ち込むことで、ゴミを減らし環境循環社会の実現に貢献できる仕組みです。回収した資源の中で、そのまま使用できるものは、併設のリユースショップで販売しています。その他、片付け代行や、地域住民に生ごみコンポストの通い袋を提供し生ごみのリサイクルも行っています。



ソーネショップ

わっぽの会の看板商品である国産小麦の手づくり『わっぽん』をはじめ、ドリンク、アルコール、お菓子、お惣菜、冷凍食品、有機野菜、日用品、雑貨など、幅広い商品を取りそろえ販売しています。愛知県農林水産部から『いいともあいち推進店』の認定を受け、愛知の名産品や、愛知県内の障害者事業所から仕入れた授産製品を扱うアンテナショップもやっています。介護福祉用品のコーナー、市民の手づくり品を展示販売できる市民 BOX もあります。その他、無農薬野菜市とお魚市も毎月定期開催しています。



忘れない3.11

第5回オンライン被災地交流会

一ホテル観洋 阿部憲子さん（南三陸町）――

3月27日、宮城県南三陸町の南三陸ホテル観洋は、東京ワーカーズの被災地訪問の宿泊先でもある、震災時から今日まで支援・復興に尽力されているホテル観洋の女将である阿部憲子さんとの交流会を行いました。

震災後に少しでも元気になっていただきたいと、訪問を重ねていますが、会う度に反対に私たちが元気になります。前向きに取り組まれている事業や活動からヒントをいただきました。

今年は、「歩みを止めない」「あきらめない」という強い心構えの言葉で、震災に加えてコロナ禍という困難も乗り越えましょうと話されました。

震災を風化させないためにスタッフによる「語り部バス」の運行もされています。今回の交流で、改めて「これから

もずっと忘れないの思い」を強くしました。私たちも「みんなが語り部」を実践し続けましょう。

震災を風化させない コロナ禍にあっても

お話を伺うのは3回目となります。初めての時は震災直後の生々しい状況を聞き、それは想像をはるかに超えるもので、とても衝撃を受けました。今回は、被災した当時から現在までの様々な活動の広がりを話され、地域の復興のために力強く貢献されている様子から10年の経過を改めて思いました。リーダーとしての決断力、負の連鎖を広げない、たすけ合いの精神、工夫して気持ちを盛り上げる、諦めない姿勢。どの言葉にも女将さんの根底にある深い愛情と行動力を感じ、お話を伝えて震災を風化させないことが自分たちの使命だと思いました。

（東京ワーカーズ・コレクティブ共済会 運営委員 仲島美佳）



読んでみませんか！

ワーカーズコレクティブガイドブック 2020 はたらきかたつくろうよ！

ワーカーズ・コレクティブの説明、ワーカーズ設立の手引き、事業経営のチェックなどを掲載しています。

ワーカーズ・コレクティブをつくりたい方、事業運営に

関心のある方はぜひ！

価格：1,000円（税込）

ご購入の連絡は、東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合まで



ワーカーズな毎日

2018年に、編集・デザインを主な事業するワーカーズ・コレクティブを設立しました。現在、5人のメンバーは、子育て世代や2つのワーカーズをかけ持つ人など、状況は多様です。それぞれの技能を生かし、意見を交わしながら仕事をしています。

ワーカーズ・コレクティブ くんべる

国立市 080-5015-4557
2018kumpel@gmail.com

デザイン・編集・企画

あるメンバーの一日

⌚ 8:00～12:00

「ワーカーズ とまと」でお弁当づくり。
実は2つのワーカーズで働いています！

⌚ 12:00～13:00

広報委員会の昼食用の「とまと」のお弁当を持って、多摩きた生活クラブ広報委員会に。
多摩きた生活クラブの機関紙『たまて箱』の打ち合わせ。
理事の想いを聞きつつ、読み手側の提案などをします。

⌚ 14:00～

打ち合わせ内容をメンバーに伝え、作業の準備など。



NPO法人
アビリティクラブたすけあい
ACT通信 2020度から製作



多摩きた生活クラブ生協
資料請求のあった方向けの『初めまして、生活クラブです』新規加入者向けの『あなたのまちの生活クラブ100%活用ガイド』『レシピブック』を理事会とともに作成しました。

『伝えたい!』をかたちに

食・子育て・福祉・コミュニティ作りなどの事業や活動を、コミュニケーションツールやコミュニケーションノウハウでサポートしたいと思っています。

思うようにならないワードやエクセルで奮闘なさっているかた、また、なにをどう書いたらいいのかお困りなかた。漠然としているところからでも想いを聞き取り、みなさんの“伝えたい！”をかたちにしてご提案していきます。ぜひ一度ご相談ください。

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合情報誌「せれくと」No.84

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル5階

TEL:03-3207-1941 FAX:03-3207-1945

E-mail office@tokyo-workers.jp

http://www.tokyo-workers.jp

発行日 2021年6月26日

編集 ワーカーズ・コレクティブ 企画編集・のもの
年間購読料 600円（年4回発行）